

サロン2002 公開シンポジウム

「スポーツクラブの法人化」を語ろう！

スポーツ文化研究会「サロン 2002」は、スポーツを通しての 21 世紀の“ゆたかなくらしづくり”を目指すことを“志”とする人びとのネットワークです。月 1 回の月例会はすでに 200 回を越え、公開シンポジウムは 2001 年度から毎年開催しています。

今年度は標記タイトルでシンポジウムを企画しました。「チームからクラブへ」「任意団体から法人格を持った団体へ」というのがこのシンポジウムのキーワードです。日本初の社団法人サッカークラブ「神戸 FC」、NPO 法人としてラグビーの普及に取り組む「みなとラグビースクール」、そして総合型地域スポーツクラブやスポーツ NPO の支援に取り組む「クラブネッツ」の事例をご紹介いただくとともに、主催者である「サロン 2002」が法人化へ向けて準備を進めていく中で直面したことなどもご紹介します。

スポーツクラブを運営されている方、これから立ち上げようとしてされている方、NPO に興味をお持ちの方、あるいはサッカーやラグビーなどのスポーツに関心のある方など、さまざまな立場の方が、立場を越えて交流できる場となることを願っています。ぜひお越しください！

なお、「サロン 2002」の趣旨とこれまでの公開シンポジウムについては裏面に掲載しています。

スポーツ文化研究会サロン2002

理事長 中塚義実

記

主催：スポーツ文化研究会「サロン 2002」

後援：一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟、一般社団法人神戸フットボールクラブ、認定特定非営利活動法人クラブネッツ、特定非営利活動法人みなとラグビースクール

日時：2014(平成 26)年 3 月 30 日(日) 13:30～16:30 (受付 13:00～)

会場：筑波大学東京キャンパス1F 119講義室
〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1
丸の内線茗荷谷駅下車「出口1」徒歩2分程度

演者：賀川 浩 (スポーツジャーナリスト) … 日本初の社団法人サッカークラブ「神戸 FC」を語る
黒崎祐一 (NPO法人みなとラグビースクール理事長) … NPO法人のラグビークラブを語る
水上博司 (NPO法人クラブネッツ副理事長／日本大学) … クラブ文化と認定NPOを語る
(コーディネーター兼)中塚 義実 (サロン 2002 理事長／筑波大学附属高校) … サロン 2002 の法人化を語る

参加申込：下記「サロン 2002 公開シンポジウム参加申込フォーム」からお申し込みください。

<http://bit.ly/PvAguJ>

参加費：1,000 円

事務局：本多克己・嶋崎雅規(サロン 2002 理事)
※お問い合わせは salon.symp@gmail.com までお願いします。

＜スポーツ文化研究会「サロン 2002」とは何か＞

「サロン 2002」は、以下の設立宣言に賛同する「同志」によるゆるやかなネットワーク組織です。

サロン 2002 設立宣言

(2000年4月1日)

我々は、以下に「サロン 2002 の“歴史”」、「サロン 2002 の“志”」及び「サロン 2002 の“会員”」を述べることに
より、ここにあらためてサロン 2002 の設立を宣言する。

【サロン 2002 の“歴史”】

サロン 2002 は、社会学、心理学等の専門的立場からサッカーの分析・研究・報告に従事していた「社・心グループ」(財団法人日本サッカー協会科学研究委員会の研究グループの一つで、1980年代後半からこの名称で活動)を前身とし、1997年からは研究者という枠にとられない、幅広い人材によって構成されるゆるやかな情報交流グループ「サロン 2002」として活動を行ってきた。

【サロン 2002 の“志”】

サロン 2002 は、サッカー・スポーツを通して21世紀の“ゆたかなくらしづくり”を目指すことを“志”とする。年齢、性別、国籍、職業、専門分野、生活地域などを超えた幅広いネットワークを築き上げ、全国各地にサロン 2002 の“志”の輪を広げ、大きなムーブメントとなることを目指す。

サロン 2002 の“志”を実現する上で、2002年 FIFA ワールドカップ韓国／日本大会は大きな節目であると認識する。国内外の様々な人々と協力しながら、この世界的なイベントの“成功”に貢献するとともに、同大会後の“ゆたかなくらしづくり”のためにできることを考え、行動する。

【サロン 2002 の“会員”】

サロン 2002 は、前項の“志”を同じくする人たちのゆるやかなネットワークである。

サロン 2002 の“志”に賛同した個人であれば、誰でも、“会員”となることができる。ただし会員は、サロン 2002 からの“Take”を求めただけでなく、サロン 2002 に対して、また社会に対して何が“Give”できるかを常に考え、“Give and Take”の姿勢でいるということが前提である。

サロン 2002 は、会員に対して短期的な成果は求めない。長い目で見た“Give and Take”の関係が成り立っていればよい。即座のアウトプットが困難であっても、いずれ何らかの形で“Give”を考えている人なら“会員”となることができる。

2013年度の会員は、現時点で約180名。全国各地にいる会員は、小・中・高・大の学校関係者、Jクラブ・地域クラブの関係者、フットサルや草サッカーの関係者、新聞・雑誌・テレビ・インターネットなどのメディア関係者、サポーターやボランティア、サッカー以外の競技の関係者など多様です。国や地方自治体のスポーツ行政に携わる者や、JFA、各都道府県 FA 関係者もいます。様々な形でサッカー・スポーツにかかわりながら、“志”を実現させようと活動する者で構成されるのが「サロン 2002」です。

「サロン 2002」の主たる活動は、通算回数が200回を越える月例会の開催と、その内容を核とするホームページの運営です。本シンポジウムは公開型月例会として2001年度より毎年行われ、人と情報の行き交う場として定着しています。

詳細は、ホームページ <<http://www.salon2002.net>> をご覧ください。

＜サロン 2002 公開シンポジウム＞

- 2001年度…FIFA コンフェデレーションズカップ総括
- 2002年度…FIFA ワールドカップ総括
- 2003年度…地域で育てるこれからのスポーツ環境
- 2004年度…totoを活かそう！
- 2005年度…クラマーさん、ありがとう！
- 2006年度…2006年ドイツで感じたこと
- 2007年度…サッカー観戦を楽しもう！-スタジアム編
- 2008年度…地域からみたJリーグ百年構想
- 2009年度…2019年ラグビーワールドカップを語ろう！
- 2010年度…育成期のサッカーを語ろう！
- 2011年度…高校サッカー90年史を語ろう！
- 2012年度…U-18フットサルを語ろう！

＜公開シンポジウム報告書について＞

本シンポジウムの内容は、後日、報告書にまとめ、サロン2002のホームページ上で公開します。主催者に無断で、個人のホームページ、ブログ等に掲載されぬよう、よろしくお願いたします。

<シンポジウム 演者等プロフィール>

賀川 浩 (スポーツジャーナリスト)

1924年、神戸生まれ。神戸一中、神戸経済大(現・神戸大)大阪クラブなどでサッカー選手。全国大会優勝、東西対抗出場、天皇杯準優勝などの経験をもつ。1952年からスポーツ記者、1975年から10年間のサンケイスポーツ編集局長(大阪)などを経て現在フリーランスとして、現役最年長記者。2010年、日本サッカー殿堂に掲額された。

1963年の兵庫サッカー友の会、1970年の社団法人・神戸フットボールクラブの創設メンバー。ワールドカップの取材9回、ヨーロッパ選手権5回、南米選手権1回。2014年には10度目のワールドカップ取材を計画中。

1970年に日本で初めての法人格市民スポーツクラブ「社団法人神戸フットボールクラブ」の設立当初、さらにその前身の兵庫サッカー友の会設立に関わった一人。クラブの牽引車であった加藤正信氏(故人)の仕事を取り返りながら、法人化へのいきさつと理念を紹介する。

黒崎祐一 (NPO 法人みなとラグビースクール理事長)

1976年、東京都港区生まれ。明治大学附属中野中学3年次に全東京ラグビー中学代表に選ばれ、高校3年次には東京都代表として国民体育大会少年の部で優勝。翌年の全日本ラグビー高校代表ウェールズ遠征に参加。明治大学ラグビー部では1996~1998で関東大学対抗戦3連覇。1995~96は全国大学ラグビー選手権大会で優勝を経験するなど華々しいキャリアを持つ。

◆大学卒業後の職歴は次のとおり。

1999年4月 日商岩井株式会社 入社

2003年1月 株式会社メタルワン 転籍(※1)

2007年8月 同社 休職(※2)

2009年4月 同社 復職

2012年4月 同社 大阪鉄鋼部薄板課 課長代理 (現在)

(※1)日商岩井(現双日)と三菱商事の鉄鋼製品事業部門が分離・統合し、部門所属社員全員が転籍

(※2)社会貢献休職適用時は、明治大学体育会ラグビー部シニアコーチとして学生を指導

◆ラグビー指導者としての経歴は次のとおり。

2001~03年 明治大学付属中野高等学校ラグビー部 ヘッドコーチ(※1)

2003~07年 明治大学体育会ラグビー部 コーチ(※2)

2004~09年 日本ラグビーフットボール協会 普及育成委員(※3)

2007~09年 明治大学体育会ラグビー部 シニアコーチ(※4)

2010年 日本ラグビーフットボール協会 事業委員

2010年~現在 関東ラグビーフットボール協会・東京都ラグビーフットボール協会 普及育成委員

2010年~現在 NPO 法人みなとラグビースクール 理事長・校長(※5)

2013年~現在 一般社団法人港区ラグビーフットボール協会 理事長

(※1)土日祝日を中心に明治大学八幡山グラウンド(東京都世田谷区)にて高校生(部員30名)を指導

(※2)土日祝日を中心に明治大学八幡山グラウンド(東京都世田谷区)にて大学生(部員100名)を指導、

2005年6月から名古屋支社勤務(単身赴任)時も同様に指導を継続

(※3)土日祝日を中心に全国の小学生に対するタグラグビーの普及・啓発活動を展開

(※4)フルタイムで明治大学八幡山グラウンド(東京都世田谷区)にて大学生(部員100名)を指導

(※5)山手線内唯一の幼児~中学生のラグビースクールを港区・青山に設立し、初代校長に就任。

2012年4月から大阪支社勤務(単身赴任)となるも週末に帰京し指導を継続中

水上博司（認定 NPO 法人クラブネッツ事務局長／日本大学）

三重大学から 2006 年に日本大学文理学部へ。スポーツ社会学とバレーボールを教えている。2012 年度まで、日本サッカー協会 B 級・A 級指導者養成講習会講師として、中塚らと共通科目「スポーツの社会科学」を担当。三重大学で教鞭をとっていた 1998 年、黒須充氏（福島大学）といっしょに「クラブネッツ」を創設。翌年 7 月ネッツを法人化。今年 2 月には認定 NPO 法人を取得。

シンポジウムではまず、クラブネッツが 1999 年の設立から東日本大震災の 2011 年 3 月までどのような事業を行ってきたのか、その間の NPO 運営の問題点は何かをお伝えしたい。NPO 法人の総数が 5 万近くにまでに増え続けているが、一方で解散法人も少なくない。そこに休眠法人まで入れるとその数は全体の 3 割にも上ると言われている。ではなぜ休眠状態になってしまうのか。ネッツの団体運営経験からそのことに触れたい。

次に東日本大震災後。ネッツはこれまでの NPO 運営の反省を迫られるが、震災前にやっていた良かったと気づかされたこともあった。例えば、被災 3 県の総合型クラブへの支援を呼びかけた「子どもスポーツ支援プロジェクト」。なぜ私たちのような NPO に支援が集まったのかを考えてみたい。

そして認定 NPO 法人取得までの 1 年 2 ヶ月の話。ここでネッツはこれまでにない数多くの NPO 向けセミナーに参加し、「スポーツ以外の」NPO の人たちから大きな刺激を受けた。いったいスポーツの NPO はこのままでいいのか、これから何をやらなければいけないのか、ということに気づき、ネッツミッションの再構築の必要性を考えるようになった。

クラブネッツのこれまでの経験をお伝えし、皆さんと意見交換したい。

中塚 義実（サロン 2002 理事長／筑波大学附属高等学校）

大阪府立三島高等学校卒業後、1980 年に筑波大学体育専門学群入学、蹴球部所属。同大学院修士課程でスポーツ社会学を専攻、修士論文は「日本サッカーのプロ化過程の研究」。

1987 年より現職。保健体育科教諭、サッカー部顧問として高校生の指導に当たるとともに、学校教育・体育関係、サッカー・スポーツ関係でさまざまな顔を持ち、幅広いネットワークで活動している。

1996 年度にユースサッカー「DUO リーグ」を創設、いまでは JFA の指導のもとで全国に広がるユースリーグ構想の原点を実践・紹介。フットサルでは 2001 年度から U-18 年代の公認大会を東京都サッカー協会で開催。今年からはじまる JFA 主催大会につながる第一歩であった。

2008 年度からは筑波大学蹴球部同窓会茗友サッカークラブ理事長。「日本サッカーの宗家」と言える同クラブは、2010 年度から現役学生と卒業生を含めた多世代型クラブ組織として再編し、日本型の新たなクラブ像を目指している。このほか全国高体連研究部活性化委員長などを務める。

1997 年度より「サロン 2002」の名称を用いる本研究会は、前身時代を含めると約 20 年間、任意団体として活動してきた。「法人格の取得を」との議論は設立当初からあったが、なかなか踏み切れないう状態が続いていた。それなりには活動できていたが、特定の個人に依存する体質からの卒業と、“志”である「スポーツを通じた“ゆたかな暮らし”」に貢献できるような事業に取り組んでいきたいとの願いから、NPO 法人化へ向けて準備を進めているところである。